

2017  
年度

# 就職講演会



就職講演会が10月28日（土）、今出川キャンパス良心館で開催されました。講演会はキャリアセンター所長、企業の採用担当者、内定を得た学生4名による3部構成で、それぞれの視点から今年度の就職活動の実情報告や今後の就活に役立つアドバイスをいただきました。父母に混じって就活を控えた学生も多数出席し、熱心に耳を傾けていました。

第一部講演



同志社大学の就職状況と  
キャリア支援

キャリアセンター所長  
柳井望氏

就職率だけでなく、就職先への満足度も高い求人倍率は売り手市場でも業種にばらつき

本日は同志社大学の就職状況とキャリア支援、そして就活中の子女との接し方についてお話しします。

まず、2017年4月採用の学生の就職率ですが、文学部は就職希望者546人に対して就職者が531人で就職率97・3%、社会学部は就職希望者409人に対して就職者が403人で就職率98・5%でした。

どのような業種に就職しているかをみると、同志社大学の文科系学部では金融とメーカー、理工系学部はメーカーに強い傾向が出ています。金融は政策、経済、商学部が就職率でそれぞれ約30%となっていますが、文学部も14・7%、社会学部が22・1%となっており、メーカーは文学部21・5%、社会学部が25・6%と他学部と比べても遜色はありません。

サンデー毎日が今年8月に各業界のトップ284社へ全国の国公私立大学からどれ位の学生が就職しているかという記事を掲載しました。大学によって学生数が異なりますので比率で順位付けをしています。それによると、関西では京大、阪大の次に同志社です。本学の学生は全国の企業から高い評価を受けていることが分かります。

ご参考までに、求人倍率についてお話しします。求人倍率とは、求人総数を就職希望者数で割ったものですが、今は1・78倍で売り手市場といわれています。1・0を超えて数字が大きくなればなるほど就職しやすく、1・0を下回って小さくなればなるほど就職しにくくなります。

ただし、この1・78倍という数字には注意が必要です。業種別にみた場合、金融業は0・19倍です。5人に1人の狭き門です。これに対して流通業は11・32倍、1000人の求人に求職者は9人という状況です。また、企業の規模別には従業員5,000人以上の大企業は0・39倍、

従業員300人以上1,000人未満の中企業は1・45倍です。注意が必要だといったのはこれらの厳しいところと緩やかなところをならして1・78倍だからです。

学生には2つのことをアドバイスしています。まず、厳しいところは厳しいので、売り手市場という言葉やうまくいった先輩の話を聞いて油断しないこと。次に厳しいところにはどんなにチャレンジしてもらおうのはいいのですが、うまくいかなかった場合に備えて、知名度や企業規模にこだわらず間口を広げて幅広く考えてほしいということです。



### 多彩なキャリアセンターのセミナー、講座 個別相談やキャリア支援システムも充実

次に、キャリアセンターはどのような支援をしているのかについてお話しします。  
ひとことで申し上げますと、実にいろいろなことをたくさん実施しています。就職ガイダンスを10月3日から6日まで4日間、今出川と京田辺の両校地で計9回開催しました。11月に入ると自己分析セミナー、エントリーシートセミナー、仕事研究セミナー、公務員・教員ガイダンスなどを開催します。

特筆すべきは、3月に企業の広報活動が解禁になると、同志社大学の学生にぜひ自分の企業のことを知ってほしいと企業側からわざわざ足を運んでくださり学内で企業説明会が開かれます。この3月に今出川では3週間に708社、京田辺には2週間に486社が来てくださいました。ブースを組んだり、講義形式だったり、学生はキャンパスに居ながらにして様々な企業の話が聞け、質疑応答ができる大変恵まれた環境にあります。

これは今社会で活躍しておられる卒業生への評価が高いからであり、OB、OGのお陰だと感謝しています。

もう1点強調したいのは、個別相談です。これは1年中先着順で1人約30分かけて相談に応じます。どんな相談でも結構です。1人が2回来ると2件と数えますが、年間12,000件もの相談があります。

キャリアセンターのウェブサイトで、同志社大学

の学生だけが利用できるキャリア支援システム「e-career」を運営しています。ここには説明会やセミナーの案内、企業求人情報やインターンシップ情報、先輩の就職体験記のほか、海外に留学している学生や授業などの理由で欠席した学生のために動画配信も行っています。

### 見守ること、折に触れて気持ち伝えること 企業、社会から高い評価を受ける「新島精神」

次に、子女との接し方についてお話しします。どうしても口を出したくなってしまうですが、見守ること。そして、心配、応援していることを折に触れて伝えること。子供から話しかけてきた時がチャンスだと思います。メールや手紙で文字にして伝えるのも一つの方法です。

そして相談ごとがあれば、いつでも学部事務室に連絡してください。父母と教職員、学生の3者が連携を取って、本人にとって一番いい道を探したいと思います。

もう1点、就職活動はお金がかかります。東京を一回往復すると2万円位かかります。「どうせ受けに行っても交通費がかかるだけだ、もったいないからやめておこう」とならないよう、自分の納得のいくまで就職活動ができるように、経済的な支援もしてあげていただきたいと思っています。

最後に、大学人として一言申し上げたいことがあります。それは同志社大学は就職予備校ではないということです。企業のために「人材を育成」しているのではなく、良心に満ちた「人物を養成」することが、大学の使命です。

充実した学生生活を送り、確固たる人格を形成する、その延長線上に就職があるということです。本学の学生については、社会、企業から非常に高い評価を受けています。その理由は2つあると、私は考えています。1つは先ほども申しましたが、卒業生が高い評価を受けているからです。もう1つは同志社大学の教育にあります。

同志社大学設立の旨意に「一国の良心とも謂ふ可き人々を養成せんと欲す」とあります。これが同志社大学の教育理念です。私たち教職員は毎年入学式でこの旨意の朗読を聞くたびに、一人の人間の多感な青年期にその人格形成に携わることの責任の重大さと我々の

使命について再認識し、学生への想いを新たにします。

このような教育理念や建学の精神に満ちた教職員に、学生が、毎日の学園生活の中で触れ合ううちに、教員からは授業やゼミ、実験や研究指導を受ける中で、職員からは様々な事務室の窓口で触れ合う中で、学生にも無意識のうちに自然と本学の教育理念や精神が身に付き、染み込んでいくのではないかと。そして4年も経ちますと、人柄となつて滲み出てきます。これが、本学の学生が社会や企業から高い評価を受けている最大の要因ではないかと、私は考えています。

私たち同志社大学の教職員は学生に対する教育に絶対の自信を持っています。「一人一人は大切なり」。これも新島の言葉です。ご父母のみなさまにおかれましては、私たち教職員を信じて、ご子女の学生生活を温かく見守ってあげていただきたいと思います。

### 第一部講演



### 就活生、採用担当としての活動

ROOM株式会社 人事本部  
グローバル人事課  
グローバル人事グループ

伊藤 有沙 氏

### 営業、管理、事務などの採用を担当 「人柄」が絶対欠かせないポイント

本日は私の就職活動、そして採用担当となった経験をお話ししたいと思います。企業紹介、ROOMが求める人材、ROOMの採用フローについてもお話しします。

まず自己紹介ですが、私は神奈川県川崎市生まれで、メーカー勤務の父は転勤族でした。小学校4年生の時、米オハイオ州に引っ越し、現地の小学校を卒業後、同志社国際中学に入学、同志社国際高校から同志社大学社会学部に進みました。

私の就活は3年生の2013年12月に始まり、合同説明会や社内セミナーに行きました。そして、2014年4月17日にROOM株式会社の内定をいただきました。もともとは銀行や保険会社などの金融系が第一志望でしたが、面接が始まるにつれて次第にROI



ムが第1志望になっていきました。  
銀行で受ける面接や説明会に比べて、ロームは一人ひとりをきちんと見てくれて、採用担当の人柄にひかれてこの会社に決めました。

2015年4月に入社して、最初は経理部に配属になり、2016年3月に人事本部人財開発部採用グループに異動になりました。ロームには営業、管理、事務、受付、技術の5職種がありますが、私は技術以外の4職種の採用を担当しました。主な業務としては、合同説明会やインターンシップ、大学での社内説明会を企画、実施などしております。1年半採用の仕事に携わり、この9月にグローバル人事グループに異動になり現在は海外出向者の管理、サポート業務をしています。ロームについてご紹介します。京都市右京区の西大路五条に本社があります。国内には28ヶ所、海外には95ヶ所拠点があります。グローバルに事業展開していますので、英語を使って仕事をしたい方、海外で働きたい方にはお勧めだと思います。

「われわれは、つねに品質を第一とする」という企業目的を掲げています。品質が私たちの仕事のポイントですが、商品だけでなく人や行動、環境、サービスなどの品質も大事にしています。人柄というのは絶対に欠かせないものです。採用時に何を見るかといえばやはり人柄です。どれだけいい大学を出てどんな能力を持っているかとしても、人柄を見てからでないと採用しないというポリシーを持っています。

**情熱、スピード、そして科学的探究心  
エントリーシートは誤字脱字に注意**

次にロームが求める人材と職種ですが、3つのポイントがあります。まず人材ですが、ロームでは「人財」と書きます。人は会社の財産だという考え方です。3つのポイントは情熱、スピード、そして科学的探究心です。この3つは、今ロームで活躍している人の共通点です。

次にロームの採用フローについてですが、私の実際の経験談をもとにお話しします。2016年度の採用で一番印象深いNさんの話をします。Nさんは京都女子大学の学生さんでした。昨年3月に京都女子大学に向いて説明会で話したときに一番前の席に座って、メモもしっかり取って、質問も最後まで手を挙げてく

れる熱心な学生でした。

社内説明会を本社で4月に開いた時も来てくれて、一番前に座って話を聞いてくれました。そのあとエントリーシートの受付が4月から始まりましたが、受付が始まったと同時に提出してくれました。とくに2枚目は図でも文章でもなんでもいいので「あなたの強み」「あなたの輝いている時」について記入するものだったので、Nさんはスタバでバイトしている笑顔の写真とともに誤字脱字もなくびっしりと書いてくれました。もちろんエントリーシートは通過しました。

5月下旬には1次選考会が始まりました。この1次選考会ではまず筆記試験と1対1の面接を行います。筆記試験はSPIに似たような試験と国語、数学、性格診断があります。面接は人事の採用担当と約5分間行いますが、こちらは連日1,000人を超える学生を面接しますので、何を見ていいのかといえば人柄と第一印象。扉を開けるときに挨拶ができていますか。入るときに「失礼します」と大きな声であいさつができて、目を見て「よろしくお願いします」と言えるかどうか。やはり第一印象と人柄は、一番最初に見るポイントです。

1次選考でNさんを担当したのはたまたま私でした。「お久しぶりです」と言ったら名前を憶えていてくれて「伊藤さんでよかったです」と言ってくれて本当にうれしかったです。最初に「どうしてロームを受けようと思ったのですか」と聞くと、「実は静岡県出身で静岡銀行を受けていますが、学内説明会で御社のお話を聞いてこの会社にぜひ入りたいと思いました」と言ってくれました。面接でも常に笑顔をやさしく、しっかりと自分の言葉で話してくれたNさんはとても印象が良かったです。筆記試験もしっかり点数を取ってくれていたの、これはもう合格だと自分の中では思っていました。

**説明会での質問が面接にプラスに  
積極的に採用担当者と話しましょう**

2次選考は6月頃に始まり、学生2人と人事の採用担当、部署面接官の2対2で行います。Nさんは2次面接では私が担当ではなかったのですが、挨拶も笑顔も対応もしっかりとしていたので、合格になりました。最終面接は7月上旬に始まり、Nさんの最終面接は学生3人に対して人事部長と役員、採用担当2人の計4

人で行いました。

Nさんはロームが第1志望で、大学での成績も優秀で、面接も笑顔であいさつもきちんとできていたので、内定に繋がってほしいと思っていました。ところが、Nさんは最終面接で感極まって泣いてしまったのです。最終面接で泣いてしまう学生もいるのですが、あまり良い結果につながる事はありません。緊張すると取り乱すという点がマイナス評価になる事もあります。役員と人事部長がどう見るかとても心配でした。

ですが、熱心に自分の言葉でロームへの想いを語ってくれたNさんは、最終的に内定となりました。次の日に私がNさんに電話して、「内定おめでとうございました。ぜひわが社に入ってください」と伝えました。実はNさんは静岡銀行からも内定をもらっていました。両親を説得して静岡銀行を辞退してくれました。

Nさんは今人事に配属になり、新入社員として頑張っています。ロームにはメンター制度という仕組みがあり、先輩社員が仕事上の悩みなどに個人的なアドバイスをしています。なんと私がNさんのメンターになって1週間に1度面談をしてコミュニケーションを図っています。何かとても深いつながりがあるんだなと思っています。

Nさんの他にも印象に残った学生はたくさんいます。共通しているのは説明会の時に積極的に質問してくれた人です。面接でまた会って、会話も深まって、その人の人柄もよく見えてきます。人事部長に話すときも「この人のこういうところがよくて、ぜひ内定につなげたい」と伝えることもできるのです。採用担当は、学生のみなさんの味方です。

これから就職活動を始める皆さんは、採用担当が怖そうに見えるかもしれませんが、ぜひ積極的に話しかけたり、質問をしてみてください。

また、保護者の皆さまも温かくお子様の就職活動を見守っていただけると嬉しいですね。狭い視野ではなく、広い視野で就職活動を進められるような手助けをしていただけると幸いです。





金融業界内定  
社会学部社会福祉学科  
4年次生

小林 洋貴さん

### 面接解禁日にいきなり最終面接、内定

まず初めに私の就職活動の流れについてお話ししたいと思います。私が就職活動を意識し始めたのは昨年の10月末ごろ、活動に移せたのが1月初めでした。最初に行ったのがインターンシップの選考会や1日だけで会社説明会とグループワークができるワンデーインターンシップ、業界研究セミナー、大学の企業説明会にも参加しました。

2月から始めたのが選考会を通過した2社のインターンシップでした。1社は東京で2日間、もう1社が大阪で5日間ありました。採用情報が解禁になる3月からはまず、大学で開かれる企業説明会に参加しました。3月下旬からは、その中で興味を持った企業の個別説明会に参加しました。

4月からは、自分の興味のある企業を1日3社回ったりしながら、説明会にも足を運びました。5月になると、金融業界を志望していたこともあって説明会というよりも人事担当者との個別面談という形が多くなりました。この個別面談は6月1日の面接解禁日前に人事担当者が学生と接触する機会、志望動機や学生時代に頑張ったことを聞かれたりする選考要素の濃いものでした。

リクルーターとの面談がうまく進んだおかげで、6月1日にはいきなり東京で3次面接と最終面接があり、その日のうちに内定をいただくことができました。

### 十分に準備して、スタートダッシュを

この経験を通して、私なりに大切だと思ったポイントを4点お話しします。3年生の時にすべきことは、自己分析や筆記対策、企業研究などたくさんありますが、3月1日に採用情報が解禁になる前には必ず全部終わらせておくべきだと思います。3月にスタートダッシュを切れるように、今のうちから用意するのが一番大切だと思います。まだ手がついていない人は、

さっそく始めてください。

2点目は、大学の成績は就職活動に影響するのかもしれない点です。成績証明書は自己PRをするときも「自分はこういうことを頑張ってきました」とアピールできる武器の一つだと思います。実際に成績証明書の提出を求められて面接でも横に置いて話をするという経験が何度かありました。自分は何に関しても努力ができる」と自己PRをしたときに成績証明書を見てもらって「勉強も頑張っているね」と認めてもらえたので、できる限りいい成績を取ることをお勧めします。

3点目は、インターンシップは就職に有利に働くかという点です。私は2社のインターンシップに行きましたが、やはりこれは有利に働くと思いましたが、それは証券会社から内定をもらいましたが、優先的に採用担当者との面接が受けられたり、限定で特別セミナーを開いたりする会社もあります。自分が興味のある会社のインターンシップには、積極的に参加することをお勧めします。

### 強みになる文学部、社会学部の学び

4点目は、文学部や社会学部が強みにできる点です。文学部と社会学部には学科が5つあり、専門性の高い勉強をしています。面接でもなぜ今の学部、学科に入ったのかという質問を何回か受けたことがあります。質問を受けた時に学科は専門性が高いので入った理由を明確に言えることが、文学部や社会学部の強みだと思います。志望理由をしっかりと決めて入学した学生は、会社を選ぶ際にも目標を決めてそれを実践する力があるということもアピールできると思います。

次にお話しするのは、私が金融、証券業界を目指した志望理由です。社会福祉学科に所属していてちょうど3年生の夏休みに1ヶ月間、福祉実習に参加しました。そうした現場で仕事をしている人たちの姿を見て、人のつながりや信頼関係、人を思いやる気持ちが社会を動かしていることを実体験として学びました。実際に就活が始まった時に金融、証券業界にも信頼や思いやりが根底に流れていると感じ、自分が大切に思っていること、学



んできたことがつながっていると思ったので、金融を志望しました。

最後に保護者と学生のかかわりについてお話しします。学生は就活の期間はアルバイトの機会も減り、就活に集中する必要があるため、交通費や就活にかかるお金が一番大事になってきます。1日に3社回ると、交通費や食費もかさみます。保護者の方は金銭面のサポートをしっかりとあげること、就活に専念できる環境を作ってあげてほしいと思います。



放送業界内定  
社会学部メディア学科  
4年次生

杉山 加奈さん

### テレビ局のアルバイトなどで苦手意識克服

私は愛知県出身で、記者を目指し始めたのは中学3年の時でした。世の中で「これはおかしいから変えていこう」ということをニュースを通して問題提起し、多くの人に関心を持ってもらって、より良い方向に変える動きのスタートを切る記者の仕事に興味を持ちました。

大学入学後、テレビ局のカメラ助手のアルバイトと、模範国連サークルを始めました。テレビ局のアルバイトでは、台風で浸水被害にあった被災者や、薬害被害にあった被害者へのインタビューなどたくさんの現場に同行しました。模範国連サークルでは国連大使になりきってスピーチしたり、議論したりします。人前で話すことや主張をまとめて話すことの苦手意識が克服できたと思います。これらの活動は、面接での自己PRとしても話しました。

私は記者になることに絞っていたので、テレビ局と新聞社を受けました。日テレやフジテレビなどの民放局は12月からエントリーシートを提出し始めます。一般企業と比べると3ヶ月も早いので、自分でしっかりアンテナを張って、情報収集することが大切です。一方、新聞とNHKは3月ごろからエントリーシートを提出します。私は9月から翌年2月にかけて民放、NHK、全国紙など9社のインターンシップに参加しました。



テレビ局の選考は東京、大阪、名古屋の順番に始まるので、順番を受けていきました。大阪のテレビ局で1つ内定をいただきましたので、後は第1志望のNHKに専念しました。

## メディアを目指す友人たちと毎週、作文練習



私がしていたメディア業界対策の1つ目は、作文対策です。3年生の10月からメディア業を目指す友人を10人くらい集めて、毎週集まって作文練習をしました。

2つ目は時事問題対策です。なるべく毎日図書館に通い、全国紙5紙を読み比べました。面接では「気になるニュースは何ですか」ということは必ず聞かれますから、日々のニュースを追うこともとても大切です。

同志社にはメディア業界のOBOG会である「メディアアクトローバー会」という組織があります。ここは年に数回総会と懇親会があって、学生も参加できるので毎回顔を出していました。メディアアクトローバー会のOB、OGによるメディアアプロフェッショナル養成講座という講義もあります。今学期も開講していますので、気になる方はのぞいてみてください。

## 記者の仕事を理解して応援してくれた両親

私の両親は、地元で就職しなさいとか、この業界は安定しているからいいというようなことは言いませんでした。そして記者というハードな仕事を理解して応援してくれました。また、すごいねという誉め言葉をかけ続けてくれたことは大変励みになりました。



東京まで足を運ぶことは関西の学生にとっても不利です。お金がないから東京のテレビ局をあきらめるといふ友人もいました。私の親はお金が足りなくなると振り込んでくれて、お陰で受けた企業はすべて受けることができました。スー

ツやカバンを一緒に買いに行ってくれたり、帰省するとおいしいご飯を作ってくれて焦る気持ちを解してくれたり、思い返すと感謝しなければいけないことは数え切れません。

就活を終えて一番大事だと思ったのは人とのつながりです。毎週一緒に作文を書いた友人は戦友のような関係で、悩みを相談し、刺激を与えつつ、仲間がいたから乗り越えられたと思います。彼らはテレビ局や新聞社に内定をもらっていて、来年からはライバルとして仕事を始めるわけですが、一生の友人になると思います。

先輩にも助けられました。毎日のように説明会や面接の予定があつて切羽詰まっていたときに明日提出しなければならぬエントリーシートに丁寧なアドバイスをいただいたり、不安なときには電話で相談に乗っていたり、とても助けられました。社会人の先輩にもたくさんアドバイスをいただきました。内定式の日にお祝いのメールをいただいたり、一緒に仕事できるのが楽しみです。いってくださったたり、今後も人生の先輩としてついていきたいと思えるような人たくさん出会うことができました。



メーカー内定  
4年次生  
文学部文化史学科

滝川 晴也 さん

## ようやく就活を意識した3年生の2月

私は何がやりたいのか、自分がどう生きていきたいかが、なかなか定まらずにふらふらしていました。就活を意識し始めたのは、3年生の2月です。やっと3社のインターンシップに参加して、初めて就活について理解しました。

3月には大学で開かれた説明会に参加しました。これは企業の側が同志社大学の学生を採用したいという強い気持ちで開いてくださるので、大きなアドバンテージだと思いました。

4月には一部の企業で選考が始まりました。私が受けたIT系の企業は選考のプロセスがとても速く、説明会から最終面接までわずか2週間というところもありました。ここで面接を経験できたことは、その後の

就職活動にとっても大きかったです。

5月は選考ラッシュで、日曜日以外はリクルートスーツを着て、毎日2、3社の説明会や選考会に参加していました。この時期になると、就活を終える人も出てきて、自分はだめなんじゃないかと考え、落ち込んでしまうこともありました。

6月も引き続き面接がスケジュールの大半を占め、6月23日に今の会社から内定をいただき就活を終えました。

自分の体験から伝えたいのは、まずインターンシップの意義です。私はメーカー系2社とメディア系1社に参加しました。1日しかないワンデーインターンシップはあまり有効ではないといわれますが、就活のきっかけづくりになる、早期に選考を受けられる、ライバルを知ることができるという3点で有意義だと感じました。

## 「絶対に受かる」という強い気持ちが大変

次は、日ごろの行いの大切さです。たとえば、あふれる情報をきちんと把握して、自分の行きたい企業を選別して、ダブルブッキングを避けるというスケジューリング管理の力。スーツのしわを伸ばし、靴をきれいに磨いて、髪形や身だしなみを整える力。たくさん企業を受ける中で、1つ1つのエントリーシートや面接にもきちんと事前準備をして臨む力。これらは簡単そうですが、日ごろからきちんと意識しなければできないことです。

「絶対に受かる」という強い気持ちも大事です。私は5月中旬に面接に落ち続けて手持ちがなくなつた際、周りの友人は通っていたので、なぜ自分はだめなのかというネガティブな気持ちになりました。落ちて暗い気持ちで面接を受けて、また落ちるといふ負のループに陥っていたと思います。

その状況からどう抜け出したかという点、自分で積極的に動いて、準備と意識の改革を行いました。

私は面接の受け答えが苦手だったので、あらかじめ想定問答をエクセルで作って、面接の前日にこう聞かれたらこう答えるという練習を何回も何回もしました。きちんと



と自分の中で答えを用意して面接に臨み、ポジティブに明るく頑張れる自分をきちんと伝えました。すると、徐々に面接の通過率も上がって正のループが働きだし、精神的にも楽になりました。

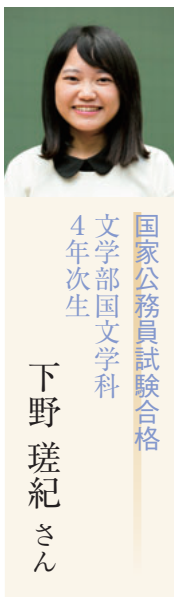
### 学業への取り組みが面接の強みに

次に普段の勉強の大切さです。就職活動において勉強が大事かどうかはいろいろ意見があると思いますが、私の受けたところでは学業について聞かれました。その時に私は普段の勉強への取り組み方や卒業研究についてきちんと答えることができ、また成績証明書でGPAも証明できたので、高い評価をいただくことができました。

面接では必ず学生時代に頑張ったことについて尋ねられます。多くの人はここでサークル活動や留学について話すと思いますが、逆説的に言えば勉強を頑張ったことが生きるのはこの瞬間だと思います。

最後に両親とのかかわり、距離感についてお話しします。私は実家に住んでいて、就活中は両親に本当に世話になりました。面接で何がダメだったとかいいう愚痴を聞いてもらったり、東京に行くときはお弁当を作ってもらったり、数え挙げればきりがありません。世話になりました。

そんな両親ですが、心配してくれることはあっても、私の就職活動の進め方や受けている企業について、口出しすることはありませんでした。就活でナーバスになっている私の愚痴を聞いて口を出さない親は神様か仏様のような存在でした。お子さんがつらい時にアドバイスを求めてきたり、愚痴を言った時には優しく受け止めてあげてほしいと思います。



### 職場環境と仕事の中心で公務員の道を選ぶ

私の両親は国家公務員で、両親を見てみると、景気に左右されず、福利厚生も整った環境で働くことができるということを実感しました。この職場環境

のよさに加え、行政という大きな仕事ができることに魅力を感じ、高校生の時から公務員を意識していました。

具体的に準備を始めたのは、3年生の4月です。公務員試験には筆記試験の科目がかなり多くあるので、効率を求めて学外の予備校に通いました。

私が採用された国家公務員一般職の試験は、6月に行われる1次試験(筆記)に合格し、7月末から8月に行われる2次試験(面接)で最終合格を得て、公務員になる資格をまずもらいます。その上で8月末にある官庁訪問という期間中に希望する官庁を訪問し、内々定をもらうために面接を受けます。つまりこの官庁訪問が民間企業の採用面接のようなものです。1次、2次の最終合格は採用を意味するものではありません。

筆記試験対策として、私は予備校の授業カリキュラムに沿いつつ、毎日できるだけ多くの科目に触れるように1年間勉強しました。直前には1日にだいたい10時間勉強していました。論文対策は予備校の先生に添削してもらいました。私は試験慣れするために7つの公務員試験を受けました。試験は4月から6月まで土日のどちらかで行われ、ほぼ毎週試験を受けに行く状況でした。

### 志望動機は自分の気持ちに素直になって

1次試験が終わると、2次試験の面接があります。志望動機と自己PR、長所・短所、周囲の評価、趣味や学生時代の部活やアルバイトの経験が主な内容です。他官庁や他の自治体との差別化をはかる志望動機が大切で、無理に作ったものでもなく、本に書いてあるようなものでもなく、自分の気持ちに素直になって考えるべきです。そのほうが面接官も納得してくれます。自己PRや長所は専門性のある職の場合だと、その仕事内容に合うものを言うべきだと思います。そうでないと、その仕事内容が分かってないと取られる場合があります。

私は2次試験の準備をする中で、自分のこれまでを振り返ることで何が一番したいかが明確になりました。私は高校生まで広島県で暮らしていましたが、都市への一極集中による過疎化や経済格差などを日頃から感じていました。京都に来て、地域を相対的にとらえる

ことができるようになり、地域の活性化に取り組みたいと思うようになりました。これを軸に志望動機を考えていきました。

面接は予備校の先生を相手に練習しました。去年の面接の質問内容が掲載されている予備校のテキストを参考にしました。私は2次面接を7回受けることができたので、官庁訪問までにたくさん場数を踏めました。笑顔でハキハキと求められたことに落ち着いて話すことが一番大事であると感じました。

### たくさん場数を踏んで、受け答えも上手に

官庁訪問の面接対策は、予備校のテキストに去年の内容が掲載されたものがあつたので、それを参考に受け答えを考えました。今年は2次試験の合格発表翌日から官庁訪問が始まりました。私の訪問日数は3日間で面接回数は11回。だいたい1日10時間程度拘束されました。面接で聞かれたことは、併願先やゼミ、アルバイトなど私の過去の経験を聞くものを中心でした。最後の面接で内々定をいただきました。

公務員試験対策でやってよかったことは、たくさんの試験を受けたことです。筆記試験や面接の慣れができ、回数を重ねることに反省点も踏まえられ、話し方などもどんどんよくなっていくことができました。1次試験までに行われる省庁や出先機関の説明会には自分の視野を広げるために積極的に参加するほうがいいと思います。

最後に就職活動中の家族とのかかわりについてお話しします。私は1人暮らしで両親も働いているため、あまり連絡は取っていませんでした。不安なことは予備校の先生や去年公務員試験を受けた先輩に相談していました。両親は無理に私に干渉せずに放っておいてくれる優しさが本当にありがたかったです。また、就活は、かなりお金がかかります。特に公務員の場合は、交通費が一切支給されません。私の場合、予備校に通っていたのと、東京での面接や説明会、官庁訪問に交通費が莫大にかかりました。両親に金銭面の援助をしてもらえると心強いと思います。

